



生涯学習だより

夢心～「夢ふくらます【はる】……ふくらむ夢と希望」

～かみしほろの健やかな育ち～

年間テーマ 「子育て・教育のまちづくり」

『子育て・教育』を取り上げるにあたって

今年度の生涯学習だよりは、「子育て・教育のまちづくり」を年間テーマとして、年に四回発行していきます。

現在上土幌町では、上土幌保育所の建て替え工事がスタートしています。さらに、この施設は、「認定子ども園」として生まれ変わります。

また、生涯学習センターは、「複合施設」として、学童保育所や、高齢者生きがいセンターの一部機能が入る形で改築され、平成二十八年度の完成を目指し、現在、各種の設計作業が進められています。

そして、これら施設面と合わせて、見直しや強化が検討されているもののひとつが、「子育て・教育」の環境整備です。

本町では今までも、町民の皆さんが主体となつた子育ての取り組みが活発でありました。また、学校や生涯学習を中心とした教育環境の充実も図られてきたところですが、これから、町としてさらなる飛躍を目指して

いることを踏まえて、今年度の年間テーマを「子育て・教育のまちづくり」としました。

具体的には、次のような情報を、タイムリーに町民の皆さんにお伝えしたいと考えています。

- ◆町民の皆さんの子育て・教育に関する主体的な取り組みを紹介します。
- ◆町では、子育て・教育に関して何をどのように検討しているのかを紹介いたします。
- ◆建設工事が始まっている認定子ども園について、その進捗状況を発信します。

これらの情報を効果的に発信していくために、今年度も六名の情報委員によって、この生涯学習だよりを編集していきます。

「子育て・教育」に関して、町民の皆さんの取り組みや、事業やイベントなどの情報がございましたら下記で紹介する情報委員や教育委員会事務局へお知らせください。

生涯学習情報委員紹介

本年度の生涯学習情報委員はこの六名で、「子育て・教育のまちづくり」をテーマに、情報収集・発信の活動していきます。

みなさまのところにも取材のお願い、寄稿のお願いにおうかがいすることもありますが、よろしくお願いいたします。



後列左から高田委員、西田委員、寺戸委員
前列左から雪野委員、大友委員、小川委員

始まっています、認定子ども園工事

現在の上土幌保育所は、昭和五十三年に建設され、今年で三十六年が経ちました。その間、多くの子ども達がここで育ってきましたが、今年度、新しい施設の建設が始まり、来年四月からの供用開始とともに、保育所から「認定子ども園」となります。保護者との協議や検討、そして各種の設計作業を終え、いよいよ今年度から工事が始まりました。

(西田 知世)



役場公用車の車庫は解体され、新施設建設の準備が進んでいます

認定子ども園って何？

現在、上土幌町には、町立の上土幌保育所と、北居辺、北門、萩ヶ岡、ぬかびら源泉郷の各地区に私立保育所があります。

過去、私立の幼稚園があったこともありましたが、現在は、町立、私立を合わせて五つの保育所が、就学前の児童の保育にあたっています。

この「保育所」とは、原則、保護者の共働きなどの理由で、昼間に子育てをすることが難しい家庭のお子さんをあずかる施設です。その対象年齢は、0歳から年長までです。

一方で、過去に上土幌町にもあった「幼稚園」とは、保護者の就労状況とは関係なく、三歳から年長までのお子さんが学ぶところで、簡単に言えば「幼児の学校」です。

上土幌保育所は、来年四月の新施設の供用開始とともに、「保育所」から「認定子ども園」に生まれ変わります。

能を持った施設のことです。さらに上土幌町の『認定子ども園』には、現在旧法務局跡で活動をしている「子育て支援センター」の機能も入る予定です。

このように、現在工事が始まっている新施設は、上土幌町の『認定子ども園』として、保育所、幼稚園、子育て支援センターの三つの機能を持って、上土幌町の子育て環境の充実に寄与していくことを目指しています。



認定子ども園完成予想図

ピックアップ

私流の生涯学習 (団体編)

はっぴーママくらぶ Bono-Bono

代表：高田めぐみ (情報委員)



「うまれる」上映会のあとに

『はっぴーママくらぶ Bono-Bono (ボノボノ)』は、今まさに子育てをしている母親たちが集まり、「こんなことを学びたい」「あんなことを知りたい」など、自分たちが学びたいことを、他の保護者と一緒に学ぶ機会を作る活動をしています。特に規約や会則などのルールづくりはせずに、また年間の活動計画なども作らず、学びたいことを発見したときに、「この指とまれ!」の方針で活動してきました。私たちが活動は、机に向かって勉強するだけではありません。例えば、去年の八月四日に開催したのは、映画「うまれる」の上映会です。命の尊さ、家族の絆を描いたこの映画は、十勝管内の市町村で、リレ―上映会として開催しましたが、チケット販売はもちろん、会場の確保や受付、託児も全て自分たちで行いました。子育てをしているからこそ気づくことがあります。これからも、そのことをタイムリーに学んでいきたいです。

すまいる はあと

代表：町田 典子



昨年のバス研修旅行

『すまいる はあと』は、発達障がいのある子の親たちが、「子どもが思いっきり遊ぶ場がほしい」という願いと、「子どもと一緒に成長したい」という思いで考え立ち上げたサークルです。主な活動は、月に一回の例会を「ふれあいプラザ」で開いています。この例会では、子ども達は思い思いに遊び、親たちは様々な情報を共有したり、悩み事の相談をし合ったりしています。また二年前から、年に一度、貸し切りバスで研修旅行にも行っています。二年前は帯広動物園、去年はちよつと勇気を出して北見市の「山の水族館」、遠軽町の「ちゃちゃワールド」まで行ってきました。子どもも親も、仲間と一緒にのバスに乗って遠出する経験は、貴重なものになっています。現在は、障がいの有無に関わらず、子どもの居場所と遊びの場を作り、親同士の繋がりがほしいという方にも入会して頂き、一緒に楽しめたらと考えています。

情報委員の

おすすめスポット

今年度、上士幌小学校が開校百周年を迎えました。それを記念して、上士幌小学校には、記念看板が設置されていますが、今回、その看板前に、花壇が設置され、開校百周年のお祝いに、文字通り「花を添えて」います。

これは、今年度から始まった役場の「緑化推進プロジェクト」の一環として整備されたものです。

例年同様、6月初旬に、アダプトプログラムの一環で、町民の皆さんによって市街地の花壇整備が行われ、国道沿いを中心に綺麗な花が植えられました。

今年はそのに加え、上士幌小学校の開校百周年記念の看板前も綺麗な花で彩られましたので、ウォーキングやドライブの時にご覧になってはいかがでしょうか。

(雪野 良子)



商工会青年部・女性部が子ども達のために！ 上士幌小児童のために傘を商店に設置

すでに新聞報道などでもご存じの方も多いと思いますが、商工会青年部と女性部は、突然の雨に備えて、傘を持たない子ども達のために、通学路の商店にオリジナルの傘を設置しました。突然の雨の時に、子ども達が濡れて帰宅することがないようにとの配慮です。また、地元の商店と子ども達とのつながりが生まれ、子ども達を見守っていく風土が出来上がっていくと思ってもいいかもしれません。

傘は、「ほろんちゃん」がデザインされたオリジナルのもので、通学路にある二十四事業所に三本ずつが設置されています。また、設置事業所には、目印としてポスターが掲示されています。

さらに、子ども達には『かさマップ』が配布され、どの事業所に傘がおかれているのか、わかりやすく案内されています。

これを機会に、商店と子ども達との自然なつながりが生まれ、笑顔で触れ合える地域になることを願っています。

(寺戸 浩司)



かさマップ



目印のポスター

今年度も元気に開催！ かみっ子ふるさと体感塾

今年で開設四年目になる『かみっ子ふるさと体感塾』が、今年もはじまりました。この事業は、子ども達に上士幌町ならではの体験活動の機会を提供しようと、三年生から六年生までを対象に、年に四回、春夏秋冬の四季おりおりの活動を取り入れ、実施しているものです。

今年度のスタートとなる「春」の活動は、商工会の協力のもと、六月十四日(土)と翌十五日(日)に実施さ



商店に取材をする子ども達

れました。今回は、二十三名の参加があり、子ども達自身が市街地のことを知るために、商店に出かけ、写真を撮り、お店の方に話を聞き、その内容を地図に書き込んでいくという活動でした。

町の企画財政課広報担当の方を講師に、取材の基本的な知識や技術、マナーなどを学んだあと、商店街を南北に分け、班ごとに取材に出かけました。

思い思いの取材をした後、二日目には、各班で取材した内容を地図に書き込んでいきました。慣れない作業の中でも、仲間と協力し、地図を完成させていきました。完成した地図は、生涯学習センターに掲示されています。(小川 美喜)



できあがったマップと記念撮影